

KMバイオロジクス 標準ワクチネーションプログラム

繁殖用めす豚

(日齢)

ワクチン略名	30	60	220	妊娠期間	580
豚丹毒		50 ↓ 60 (以後6か月間隔)			
日脳 (不活化)		m株 ↓	↓ (弱毒日本脳炎ウイルスm株で免疫した豚に4週間後追加注射※1)		
豚パルボ (不活化)		↓	↓ (4週間隔2回注射。以後6か月毎又は周産期毎交配前に追加注射)		
豚パルボ (生)		↓	(↓) (初産豚は2回注射が望ましい)		(以後毎年1回又は周産期毎交配前)
日脳・豚パルボ (混合生)		↓	(↓) (初産豚は2回注射が望ましい)		(以後毎年1回又は周産期毎交配前)
TGE/PED				↓ ↓ (分娩予定の5週および2週間前)	(以後分娩毎2回注射)
AR				↓ ↓ (分娩予定の5~6週間前および2週間後)	(以後分娩2週間後に1回注射)

※1：前年度にワクチン歴を有する豚には2mLを注射。以後6か月毎又は周産期毎交配前に追加注射。

■日本脳炎■

- ・流行開始時期は、地域により差があるので予想される流行開始の1か月前までに注射を済ませる。
- ・一般的な注射時期は西日本では4~5月、東日本では5~6月頃である。
- ・未越夏豚は2回以上注射するのが望ましい。
- ・夏を過ごした経産豚に対しても実施する。

■豚パルボウイルス感染症■

- ・日本脳炎生ワクチンと同時期に注射されるが、通常季節を問わず感染するので、年間を通して分娩毎に免疫した方が望ましい。
- ・豚パルボウイルスの清浄地区から汚染地区への豚の移動、あるいは反対に清浄地区への導入などの場合も、季節や産歴を問わず注射を迅速に行う必要がある。

■豚伝染性胃腸炎(TGE)、豚流行性下痢(PED)■

- ・妊娠豚に3週間隔で2回、分娩2週間前に終了するように注射する。次回の妊娠からは、分娩毎に2回、分娩2週間前に終了するように注射する。
- ・通常寒い季節に備えて注射されるが、ウイルスが常在化している場合は、年間を通して免疫した方が望ましい。

ワクチン略名	製品名	ワクチン略名	製品名
豚丹毒	豚丹毒生ワクチン「KMB」	日脳・豚パルボ (混合生)	日本脳炎・豚パルボ混合生ワクチン「KMB」
日脳 (不活化)	動物用日脳TCワクチン「KMB」	TGE/PED	スィムジェン® TGE/PED
豚パルボ (不活化)	豚パルボワクチン「KMB」	AR	スィムジェン® rART ₂
豚パルボ (生)	豚パルボ生ワクチン「KMB」		スィムジェン® rART ₂ /ER